

別紙 6

高槻病院産婦人科研修プログラム 募集要項

【プログラムの理念】

本研修プログラムは、以下に示す理念に基づいて産婦人科専門医研修を行います。

- 1) “世界の情報” “自らの経験” “患者が発する情報” を組み合わせることで、眼前の患者の最も必要な医療を模索すること、このような臨床の反復により、新しい医療（エビデンス）を開発能力の養成を教育の基本とする。
- 2) チーム医療の実践を通じて、各々の力量に応じた役割と責任を果たすことを学ぶ。さらには、医療人としての礼節と謙虚さを育む。
- 3) 医療過疎地域支援活動（後述）を通じて、「医療の最終責任を負う心」を育むと同時に、「医師としての社会使命」を学ぶ。

【プログラムの社会使命】

本研修プログラムは下記の問題の改善に貢献することを、社会使命としています。

- 1) 産婦人科医療過疎地域支援
“2名の産婦人科医師（指導医1名と後期研修医1名）および1名の麻酔科医による医療チーム”を、全国の産婦人科医療過疎地域へ派遣する。派遣医療施設は、“全国公募”により決定し、同一施設への派遣期間は5年間とする。
- 2) 地域（大阪府全域）周産期医療支援
大阪府下の主要周産期医療施設が連携し、各施設の長所を生かしながら、診療・教育に関して相互補完する。さらには、地域全体の診療成績の向上に向け、1～3次医療施設を包括する診療体系の構築を模索する。

【産婦人科の基本方針】

「患者にとって最高の診療を常に全力で模索する。」ことをモットーとしています。

「世界の情報」と「チームの経験」に「患者が発する情報」を組み合わせることで最高の診療が行えます。教科書、文献の情報は診療する前から知っていることが前提であり、過去の経験を自施設の症例から把握しておくことも前提です。そのうえで、患者の発する理学所見を正しく把握し、それらの情報から論理的に推察したうえで、患者にとって最適な治療を選択します。

さらに、そこから得られた新しい知見を積み重ねて臨床研究とし、学会発表や論文を通して、高槻病院の診療を世に問います。

【プログラムの特徴】

1 チーム医療制

各研修医は診療チームに所属し、チームリーダーや上級医からの指導の下で診療します。研修の一環として、チームに配属された学生や初期研修医の指導を行います。朝・夕の申し送りミニカンファレンスでチーム間での情報を共有し、同時に学習します。担当時間外は原則フリーとなります。

2 カンファレンス

特徴のある以下のカンファレンスを実施しています。

- 月曜 17:30～ 術前症例検討
- 火曜 8:00～ 周産期センターカンファレンス（新生児科合同）
- 水曜 8:00～ 問題症例の診療指針模索（前向き症例検討）
- 木曜 8:00～ 症例の振り返り検討とレビュー
- 木曜 17:30～ 病理カンファレンス（手術症例中心）
- 毎日 8:45～ 申し送り、チーム間の情報共有、問題症例の診療指針ミニ検討
16:45～ 申し送り、チーム間の情報共有、問題症例の診療指針ミニ検討

3 臨床研究

カンファレンス内容から新しい診療課題をみつけ、症例報告や臨床研究を行います。本当に患者の診療に有用な症例や研究テーマだけが対象です。上級医は全力で援助しますが、論文の作成、投稿、掲載まで原則自力で行うよう指導します。

4 臨床トレーニング

連携施設を含め、症例は多岐にわたり、かつ豊富にあります。しかし、豊富な症例に頼らない、系統的な手術手技の鍛錬を厳しく行っています。上級医やチームリーダーが各レベルの到達を承認しないと、術者にはなれません。技術習得の早さではなく、「常に継続的に努力する姿勢」を重視しています。医師不足の地方での産婦人科医療に従事し、医師としての技量や精神を鍛錬します。

5 2人当直制

必ず上級医とペアを組んでの2名当直体制なので不安はありません。他科の当直医師も多く、夜間・休日でも常にコンサルトが可能です。

【当院産婦人科の紹介】

1 産婦人科スタッフ

研修プログラム責任者：小辻文和（総合母子医療センター長）

産婦人科専門指導医資格者数：3名

産婦人科専門医 8名 産婦人科専攻医 3名

周産期新生児（母体・胎児）専門指導医 1名

婦人科腫瘍専門指導医 1名

女性ヘルスケア暫定指導医 1名

日本臨床細胞学会専門医 2名

周産期新生児（母体・胎児）専門医 2名

婦人科腫瘍専門医 1名

がん治療認定医 4名

2 担当分野：生殖内分泌・周産期領域・婦人科腫瘍領域・女性のヘルスケア領域

3 施設の特徴：

- 産婦人科病床は60床で一か月平均の入院数は200名、外来は週5日間(午前4診、午後2診)で、一か月平均来院者数は2800名です。
- 全国規模の周産期センター(MFICU 6、NICU 21床)を所有し、産科救急を含めた活動は極めて活発です。(大阪府内での年間産婦人科緊急搬送受入数は常に1~2位)
- 断らない救急体制が確立しており、産婦人科の搬送受入率は100%です。
- 前置胎盤以外の帝王切開は全てMFICU内に設置された産科専用手術室で行われ、緊急時は病院到着後25分以内に児を出産することが可能です。
- 羊水吸引の子宮底部横切開や腹膜外帝王切開など新しい手技の開発にも挑戦しています。
- 婦人科腫瘍学会専門医研修施設に認定され、婦人科症例も豊富です。小辻部長や大石部長の手術には定評があります。
- メッシュなどの異物を使わずに完璧に修復する子宮臓器脱の手術は、全国でも注目されています。
- ALSO、NCPRなどの講習会を自院で定期的を開催し、近畿地区で開催されれば積極的に支援しています。
- このような活発な臨床活動は、研修医教育や臨床研究に支えられています。また、教育、研究の発展がさらなる臨床活動の発展に繋がっています。

【研修連携施設】

- 1 福井大学医学部附属病院（福井県 吉田郡）
担当分野：生殖内分泌・周産期領域・婦人科腫瘍領域・女性のヘルスケア領域
施設の特徴：
 - 地域型の大学病院としての臨床研修施設です。
 - 単なる臨床研修だけではなく、共同で臨床研究を行っています。
- 2 神戸大学医学部附属病院（兵庫県 神戸市）
担当分野：生殖内分泌・周産期領域・婦人科腫瘍領域・女性のヘルスケア領域
施設の特徴：
 - 都会型大学病院としての臨床研修施設です。
 - 単なる臨床研修だけではなく、共同で臨床研究を企画しています。
- 3 愛仁会千船病院（大阪府 大阪市）
担当分野：生殖内分泌・周産期領域・婦人科腫瘍領域・女性のヘルスケア領域
施設の特徴：
 - 都会型総合病院の研修施設で、産科症例、婦人科症例ともに豊富です。
 - 内視鏡から悪性疾患まで手術内容もバラエティに富んでいます。
 - 大阪府で最も活発な産婦人科救急受入施設の一つでもあります。
- 4 明石医療センター（兵庫県 明石市）
担当分野：周産期領域・婦人科腫瘍領域・女性のヘルスケア領域
施設の特徴：
 - 地域型総合病院の研修施設で、地域医療としての研修が可能です。
 - 分娩数と婦人科手術ともに症例豊富な施設です。
- 5 後藤レディースクリニック（大阪府 高槻市）
担当分野：生殖内分泌
施設の特徴：
 - 不妊症専門クリニックで、生殖補助医療症例は極めて豊富です。
 - 不育症症例の管理も充実しています。
 - 基幹施設である愛仁会高槻病院にほぼ隣接しており、密接な連携研修可能です。
- 6 大阪府立母子保健総合医療センター（大阪府 和泉市）
担当分野：周産期領域
施設の特徴：

- 日本有数の規模を誇る周産期センターで、周産期領域の専門研修施設です。
- 産科救急搬送、産科ハイリスク産科症例も多数あります。
- F L Pなどの胎児治療も実施可能な施設です。

7 りんくう総合医療センター（大阪府 泉佐野市）

担当分野：周産期領域・女性のヘルスケア領域

施設の特徴：

- 救命救急センターを保有する地域型総合医療センターで、地域研修も可能です。
- 妊婦心肺停止症例（死戦期帝王切開）などの最重症妊産婦救急に対応可能です。

8 加古川中央市民病院（兵庫県 加古川市）

担当分野：生殖内分泌・周産期領域・婦人科腫瘍領域・女性のヘルスケア領域

施設の特徴：

- 地域型総合医療センターで地域研修も可能です。
- 新生児科と協力し、地域での中心的な周産期搬送施設の役割を担っています。

2016年 各施設の主要実績

	連携施設	分娩件数	帝王切開数	母体搬送 受入件数	生殖補助医 療受診者数	婦人科手術 症例数	婦人科浸潤 がん症例数	腹腔鏡下 手術数
1	愛仁会高槻病院	1338	433	207	0	443	44	90
2	福井大学医学部附属病院	157	63	22	66	220	51	56
3	神戸大学医学部附属病院	450	250	70	0	350	50	50
4	愛仁会千船病院	1500	440	120	10	500	60	300
5	明石医療センター	1050	230	20	10	450	60	205
6	後藤レディースクリニック	0	0	0	580	158	0	0
7	大阪府立母子保健総合医療センター	1600	500	200	0	0	0	0
8	りんくう総合医療センター	930	240	200	10	30	0	10

注：一部2014年の実績を含む

【処 遇】

- 身分 医員（常勤医）
 - 宿舎有り（法人の社宅規定に準じる）
 - 各種保険適用
 - 給与（月額）
 - 卒後 3 年目 320,000 円
 - 卒後 4 年目 340,000 円
 - 卒後 5 年目 360,000 円（賞与・当直料は別途支給）
- | | | |
|-------------------|-------------|-------------|
| 当直料（当直回数 5-6 回/月） | 産婦人科当直 | 平日 60,000 円 |
| | MF I C U 当直 | 平日 45,000 円 |

【応募資格】

医師免許取得後 2 年間の卒後臨床研修修了または修了見込み者

【応募手順】

- 1) 募集時期 2017 年 7 月 1 日頃から予定
- 2) 選考時期 2017 年 12 月 1 日頃から予定
- 3) 出願書類
 - 高槻病院産婦人科研修プログラム研修申請書
 - 履歴書
 - 医師免許証（コピー）
 - 臨床研修修了登録証（コピー）あるいは修了見込証明書
- 4) 募集人員 2 名（1～3 名 該当者がなければ採用なし）
- 5) 選考方法 面接 小論文（1200 字）
- 6) 合否発表 選考面接後 1～2 週間で郵送とメールで通知

【問い合わせ先】

- プログラムについて
〒569-1192 高槻市古曽部町 1 丁目 3 番 13 号
愛仁会高槻病院 産婦人科 中後 聡
電話 072-681-3801 F A X 072-682-3834
e-mail : satoshin@ajk.takatsuki-hp.or.jp
- 資料請求について
〒569-1192 高槻市古曽部町 1 丁目 3 番 13 号
愛仁会高槻病院 臨床研修センター 倉橋 秀美

電話 072-681-3801 F A X 072-682-3834

e-mail : hidemi.kurahashi@ajk.takatsuki-hp.or.jp

URL : <http://www.takatsuki.aijinkai.or.jp>